題字出口直日

通巻第６２１号
発行 大本東京本部
東京宣教センター
センター長 橋本 伸作
〒110-0008
東京都台東区池之端 2-1-44
TEL 03-3821-3701
FAX 03-3821-5283
振替 00160-5-72625
URL http://oomoto-tokyo.com
Mail tokyohonbu@oomoto.or.jp

今月の聖言

敵（てき）といふものはこの世（よ）にあらざらむ
人類愛（じんるいあい）の道歩（みちあゆ）む身（み）は

出口王仁三郎聖師

【聖地土・金字松十神島十釉】

教主さまお作　「言霊（ことたま）」

みろくの世を目指して

愛善宣教課主幹　西山桂一郎

大本では、開教以来、神さまを中心に、生きとし生けるすべてのものが、平和で穏やかに暮らせる世界の実現を目指しています。そうした世の中を「みろくの世」と呼んでいます。

「みろくの世」の実現のためには、まず自分さえよければ他人はどうでもよいという〝われよし、強いもの勝ち〟の精神をなくさなければなりません。その上で、お互いを尊重し合い、助け合って、すべてのものが共に生き共に栄えることに努めなければなりません。それは決して、国と国だけの問題ではなく、地域や社会、そして、私たちの家庭や身近なところにも、同じことが言えるのではないでしょうか。

三代教主さまは、「自分だけが正しいのではない」と、ご教示くださいました。誰しも、自分は正しいのだと思って行動してしまいがちですが、相手もまた正しいのだと。そのことをしっかりと意識していないと、「自分はこれが一番いいと思っている。それに対して、あの人は反対している。けしからん」ということになります。ここに争いの原因が生じます。

「平和な世界を、ほんとうに求めるのであれば、まず、どんなばあいにも、人を打つ（非難する）ということは、さけるべきであります。人を打つことは、いかなる理由にせよ、平和をきずきあげるためには、マイナスであります。（中略）自分というものを省りみ、その時々の自分を見、自己のもつよからぬものをおさえる力をもつことが、平和をこいねがうものがまず第一に身につけなければならない第一の条件とでもいうべきものでありましょう」（三代教主さま・人類愛善新聞昭和37年6月17日号）

今はまさに、多様性の時代です。自分の考えだけが正しいと思うこと自体、誤りであることは、多くの人々が理解しておられることと思います。しかしながら、それが理解できていても、いざ実生活になると、「あの人はけしからん」と、考えがちです。

もう一度、自らの心を振り返って、暖かく穏やかな、思いやりの精神で、「みろくの世」の実現を目指しましょう。

地球で今、何が起こっているのか

～環境への取り組みと人類愛善運動～（上）

スウェーデンの環境活動家グレタ・トゥーンベリさん（16）が国連気候行動サミットで発した「怒りのスピーチ」が話題となりました。それは決して他人事ではなく、私たち一人ひとりに向けられた言葉でもあります。環境問題の現状と私たちにできる取り組みについて、共に考えてみましょう。

再び、美しい地球へ

この2枚の写真は、衛星から撮影した地球の写真です。同じ北米大陸を撮影していますが、左と右とでは、34年間の時間の経過があります。左の地球は青く美しく見えるのに、右の写真では大陸全体が茶褐色に見えます。緑も見えず海の青も濁っています。この地球の変化は何がもたらしたものなのでしょう。そして地球に住む私たちの生活はどのように変化しているのでしょう。これからの未来、左の写真のように、かつての美しい地球に戻ることができるのでしょうか。

環境問題から考えたいと思います。

今、地球上では25種類もの環境問題が起きていると指摘されています。もちろん、この25種類が全てではないかもしれません。環境問題は人間が活動する中で自然生態系に変化を与え、これが再び人間や社会に悪影響をもたらすものでありますから、ある意味人間自身が引き起こした社会問題であるといえます。

変化する地球環境

環境問題は人間の活動によって質的に変化し続け、影響も大きくなっています。日本では戦後復興期から高度経済成長期にかけて、工業地帯の整備、重化学工業の地方展開による産業公害問題が中心となりました。そして安定経済成長期に入りますと、2度のオイルショック以降、エネルギー消費が急に伸びます。また高速道路や空港建設などインフラ整備、自動車、電気機械産業の隆盛期を迎え、都市生活型環境へと変化し、さらにはバブル崩壊を経てグローバル化が進み、少子高齢化、サービス産業に対応した都市開発と、ライフスタイルも大きく変化しています。

環境省は、地球環境問題は9つの現象であると定義しています。①オゾン層の破壊、②地球温暖化、③酸性雨、④森林・熱帯林の現象、⑤砂漠化、⑥開発途上国の環境（公害）問題、⑦野生生物種の減少、⑧海洋汚染、⑨有害廃棄物の越境移動です。この中の地球温暖化の問題は多くの地球環境問題と関連付けられます。

それでは、地球環境問題の中で、その中心にあたる温暖化について、注目してみます。地球温暖化はどのように変化しているでしょう。

岡山大学の研究データでは、地球の平均気温は15℃で、地球全体の保温効果を担っている大気（温室効果ガス）がなくなるとマイナス18℃と、とても寒くなります。氷河期終了後、地球の平均気温は1000年間で5℃上昇したことが分かっています。その後、約9000年間、気温が安定し現代にいたっています。

しかし、21世紀末には地球の平均気温が0.3～4.8℃上昇するだろうと研究結果が出ています。氷河期後100年間で気温が0.5℃の上昇だったことからすれば、今世紀は急激な温度上昇となる予測です。

温暖化防止へ向けて

地球温暖化防止への取り組みは全人類に共通する課題であり、国際的な枠組みの中で進められています。

1つは「気候変動枠組み条約」、2つめが「気候変動枠組条約締約国会議」、この会議は略称でCOPといいます。現在の締約国数は197カ国で、毎年各国で開催され、昨年12月にCOP25がスペインで開催されました。3つめの枠組みが「気候変動に関する政府間パネル」、この会合をIPCCといいます。ここでは科学者により地球温暖化に関する評価報告書をまとめています。

例えばIPCCでは、産業革命前から平均気温が1.2℃上がると、異常気象により穀物の収穫への影響が大きくなることや、上昇温度が3.4℃になると北極などの氷床が溶けることにより海水の上昇、生態系への悪影響など、あらゆる分野へのリスクが高くなると指摘しています。

気候変動の国際的な取り組みは「気候変動枠組条約締約国会議」COPで、2015年に採択されたパリ協定に基づき国際的な対応が進められています。この協定では産業革命以降の世界の平均気

～21世紀・生きがい講座～

小林 龍雄
大本本部長／人類愛善会長

温上昇を2℃未満に抑えるための全体目標を定めました。

IPCCからの警鐘

IPCCは2018年10月、産業革命前から比較して温暖化による気温上昇が1.5℃に達した場合、地球の影響はどうなるのか、社会の影響はどうなるのかを整理した『1.5℃特別報告書』を公表しました。これは温暖化の影響が特に大きい国々の熱帯地域や高緯度地域からの要求によるものでした。

報告書では、パリ協定で国際社会が気温上昇2℃以下を目指すべきとした目標について、「さらに1.5℃に抑えれば影響は格段に違う」と分析。地球全体の平均気温は産業革命前からすでに1℃上昇しており、現状は2100年に3℃上昇するペースであること、このままいくと2030年から2052年には1.5℃に上昇すると予測されています。

この上昇を止めるためには2030年までに二酸化炭素の排出量を2010年に比較し45％削減し、2050年までに排出をゼロにすることが必要であると指摘。そのため、政府、企業、NGO等はこれまでとは次元の違う対応が早急に必要と結論付けています。

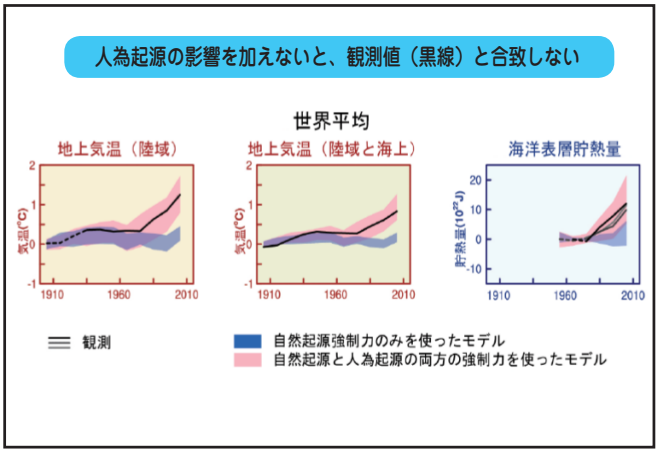
温暖化の原因は？

地球温暖化の原因が本当にCO_2なのかについて考えてみたいと思います。

科学者の中には地球温暖化は太陽活動の活発化によるものでCO_2とは関係ないと説を唱える学者もいます。私は個人的にはCO_2原因説を支持しています。その理由は2つあります。1つは科学的側面です。

例えば人口の多い北半球の方が温室効果ガスの濃度が高いこと、人口が多い分人間の活動も多く、影響も大きくなりCO_2の濃度が高くなります。また、人の影響を加味することにより20世紀の温暖化を科学的にシミュレーションができることです。図（観測およびシミュレーションにより再現された気候変動の比較）のようなシミュレーションもあります。

この3つの青いメモリがあるグラフは、太陽活動や火山活動の自然起源の影響のみを考慮したシミュレーションです。赤い線はそれにプラスして人間の産業活動によるCO_2の排出などの影響を加味したシミュレーションです。そして黒い線が気温の観測結果です。この3つのグラフから解るように、観測結果の黒い線は自然起源の影響と人間活動の影響を考慮した赤い帯のシミュレーションとよく一致していることが理解できます。



図：観測及びシミュレーションにより再現された気候変動の比較
出典：IPCC AR5 WG Ⅰ SPM Fig

このような比較から、温暖化の原因は人間の様々な活動により発生した温室効果ガスの影響を強く受けていると言えるのではないでしょうか。

そしてもう1つの理由は、出口王仁三郎・人類愛善会初代総裁が、今から約80年前、太陽の黒点について、次のような随筆を残しています。

「今年（昭和七年）の暖かいのは太陽に黒点が出来たからだ、という学者があるようだが、そうではない。大地が熱しているからである。大地が熱して暖かいから、それが黒点となって太陽面に表れているのである。つまり黒点ができたから暖かいのでなくて、暖かいから黒点ができたのである。すべてこれは大地が元である。一般に太陽が大地より非常に熱いもののように思われ、地上の熱は太陽のみから来るように思われているが、実は大地が元で熱いのである」

現在の科学からは、かけ離れた説と思いますが、太陽の影響よりも、もともと地球が熱く、その熱で太陽が温められ、一定の温度を保っていた。けれどもこの大気の温度が異常に上がってきた。それは人間活動により排出された温室効果ガスの濃度が高まったことによるもので、太陽のエネルギーが地球を温めた影響よりも地球自体の影響の方が遥かに温暖化に影響していると示されているように私は理解しました。

（次号に続く）

掲載文は、令和2年6月17日に大本東京本部から配信した「21世紀・生きがい講座」講演録の要旨です。

東光苑月次祭

東光苑秋季大祭・新穀感謝祭・七五三詣りは、11月8日午前10時30分から、斎主・出口眞人氏のもと執行され、114人が参拝した＝写真左。

当日は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、関東教区主会長をはじめ、各分所・支部から代表参拝をお願いしての祭典となった。また、自宅からの参拝を推進するため、祭典の模様はインターネットを通じ配信され、映像を通して遠隔地からも遥拝された。

祭員は各主会の祭務部長が、伶人は二絃の会関東支部、また大本神諭拝読は関川喜一郎栃木主会長が担当。

祭典後、若宮恵氏による八雲琴「岩笛曲」の奉納。その後、小林龍雄大本本部長があいさつ、引き続き人類愛善会からレバノン国ベイルート爆破被害に対する義援金として愛善基金を駐日レバノン大使ニダル・ヤヒヤー氏へ贈呈＝写真右。

その後、宮下愛善人類愛善会副会長から新型コロナウイルス感染予防のために、大本信徒の手作りマスク1300枚が贈呈された＝写真左。続いて、ニダル・ヤヒヤー大使があいさつに立ち、愛善基金と手作りマスクの贈呈に対するお礼を述べた後、今年の8月4日、レバノン国の首都ベイルートで起こった爆発事故による壊滅的な被害の支援のため、日本の赤十字社をはじめレバノン国を支援するためにさまざまな企業・協会・組織・個人としての寄付に対する日本人の優しさ、心温まる対応に感謝の意を表した。

引き続き七五三詣りのお子さんに橋本伸作東京宣教センター長から千歳飴が贈られた。橋本センター長のあいさつに続いて斎主の出口眞人氏があいさつに立ち、コロナ禍の影響でインターネットを通じて〝死後の世界〟など大本の教えを発信する時代になってきたことなどを語った。なお、1階ロビーでは、マイ箸推進のため、箸袋の直心会バザーが催された。

家庭平安祈願祭

家庭平安祈願祭（第29回）は、10月24日午前10時30分から、斎主・加藤道明祭務課長のもと執行され、37人が参拝した。

祭典では、斎主と祭員が全国から申し込まれた483件の氏名を全て読み上げ、家庭の平安と繁栄を祈念。

祭典後、東京本部を代表して、橋本伸作東京宣教センター長があいさつした。

なお全国から申し込まれた家庭平安祈願は祭典後1週間、東光苑ご神前で継続された。

21世紀・生きがい講座

第211回21世紀・生きがい講座は10月22日午後7時から、大本東京本部YouTubeチャンネルにて配信され、能楽師で大倉流小鼓方の久田舜一郎氏が「和のこころを学ぶ」～能楽の紹介と実演～と題して講話した＝写真左。

600年以上もの歴史を持ち、世界最古の舞台芸術とされる能楽。久田講師は、「大本と能楽は、開祖さまの時代から縁がある」と語り、三代教主さまが伝統芸術・文化に深い造詣を持ち、三代教主さまご自身が能楽を実践され、みろくの世の雛型として、大本の教風に取り入れられた経緯を紹介。

また、宗教と芸術は双方一致するものとして、どちらも神様に通じており、神と人とを結び合わすものであるとして、能楽の実演をまじえながら、「日本の伝統芸術は型の美が大切にされている。能楽もまた謡や礼儀、姿勢などには様式の美しさがあり型となっている。そこに舞台全体が和合してくる美しさもある」と話した。

また大本は、「型の大本」として、伝統芸術を学ぶことを通して、良い型（礼儀、姿勢、作法等）を世の中に出していくことに繋がっていると述べた。

1月 東光苑祭典・行事予定

1日（祝・金）午前7時～
新年祭・年賀交換

1日～3日（金～日）午前9時30分～
年賀

10日（日）午前10時30分～
東光苑月次祭・成人式典・合格祈願祭

19日（火）午前10時30分～
聖師毎年祭（73年）

20日（水）午後7時～
東光苑オンライン講座
（大本東京本部YouTubeチャンネルで配信）
講題　大本開祖の神業
～火の御用水の御用120年～
講師　橋本伸作（東京宣教センター長）

※行事の延期や中止、祭典の参拝をご遠慮いただくなど、予定を変更する場合があります。
※令和3年の七草粥接待は中止します。